

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3-1

(別添1)

令和2年12月24日

協議会名: 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
半田市地区路線バスごんくる(知多乗合株式会社)	3路線【1路線1台、計3台の車両減価償却費等補助】	・低調であった亀崎・有脇線について、令和2年4月1日、路線改善を実施した。 また、他の2路線についても遅延解消のためのダイヤ改正を併せて実施した。 ・令和2年度10月1日から、地区路線バスごんくる以外の路線を新規導入した。	A 平成30年10月から計画通り運行開始	【目標】令和4年度末の地区路線バスごんくる3路線の目標値は740人/日 【結果】令和2年9月末時点のごんくる3線の平均利用者数は196人/日、目標値の26.5% 【理由、分析等】運行開始当初の目標値であり、路線拡大分を見込んで目標値が高すぎたものと考えている。 ・半田中央線、青山・成岩線については、平成30年10月の運行開始以降右肩上がりで推移しており、令和2年4月1日には要望のあった遅延解消のためのダイヤ改正を行い、利便性の向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛の影響により一時は利用者数が対前年比で4割減となったものの、6月以降復調傾向にあり、一定の利用者の定着が図られてきたことがうかがえた。 ・低調であった亀崎・有脇線については、地元との協議に基づいた経路変更を含む路線改善を令和2年4月1日に実施。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛の影響で評価が難しい状況にあるが、積極的な外出(利用)促進を講じることができなかったことも、利用者数の増加に繋がらなかった一因であったと分析している。	・令和3年度以降も、引き続き交通空白地域への地域路線の導入を継続する。 その際、地域の実情に合わせ、定時定路線バス以外の形態も含めて検討する。 ・利便性向上のためのバスロケーションシステムについて、今後拡大予定の路線にも順次導入する。 ・新規に導入する路線、低調が続く路線等を中心に、具体的な利用方法を紹介するなどして、地域住民への普及・啓発を行い、利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料3-2

令和2年12月24日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・長年の間、民間自主路線に市が赤字補てんする形でバス交通を維持してきましたが、路線の大きな見直しが行なわれ利用者減少が続け、平成28年3月には、運行事業者の意向により、2路線の廃止と1路線の短縮が実施されました。そこで、本市では平成30年3月に「おでかけ環境が充実した住みやすいまち半田」を交通将来像に掲げ、半田市地域公共交通網形成計画を策定するとともに、平成30年10月から、計画に基づき、市内バス路線の大幅な再編を実施しました。</p> <p>・再編により民間事業者の運営する基幹路線2路線と市の運営する地区路線3路線(フィーダー系統)で運行する形となり、基幹路線が市中心部と各地域を結ぶ背骨となり地区路線が地域内を細かく巡るという役割分担を果たすことで、きめ細かい移動ニーズへの対応を目指しました。運行形態のほか、運賃の見直しや上限設定(乗り継ぎ割引)、共通乗車券、民間路線の混雑時間帯の直通化など、官民一体で利用しやすい仕組みづくりに取り組みバス環境を向上させました。</p> <p>・再編後も、引き続き、高齢者の増加や運転免許返納など移動需要の高まりに対して、改善を重ねながらより良い公共交通環境の形成を進めてきました。</p> <p>・本事業は、背骨となる基幹路線と各地域を結ぶ亀崎・有脇線、青山・成岩線、半田中央線の3線の確保維持を目的としていますが、基幹路線との接続のほか地域内の買い物、医療等施設を巡回する同3線の確保維持は、暮らしに密着した移動手段の確保という側面も併せ持ち、地域交通の基盤維持を図るためにならざるを得ない事業となっています。</p> <p>また、交通空白地域の解消に向け、上述のフィーダー路線と比較して小規模な範囲において、地域のバス会と協働で新たな地区路線バスの導入を進めており、令和2年10月には、新たな地区路線バスを1路線(岩滑小線)を導入し、市内の移動手段の充実を図りました。</p>